



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 214  
January  
2011

## トピックス

### 謹賀新年

### 国際会議への参加

▶ 第4回アジア防災  
閣僚会議への参加

▶ ブータン国際会議  
とGLOFプロジェクト

### お知らせ

防災プロジェクト・  
ポータル開設

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

© ADRC 2011



# 謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。

本年も引き続き、自然災害の危険性が軽減されて、人々が安心して暮らせる社会となることをお祈り申し上げます。

振り返りますと、昨年は、1月12日のハイチ地震に始まり、チリの地震・津波、中国での地震・洪水・土砂崩れ、パキスタンの洪水、インドネシアの地震・津波・火山噴火等の数多くの自然災害により、多くの尊い人命が失われ、また、人々の貴重な財産も失われました。特に気候災害の危険性が高まっており、我が国においても夏の猛暑や奄美大島で記録的な豪雨等、過去にあまり例のないような自然災害を経験しました。加えて、地震・津波・火山等の危険性も改めて認識しました。

昨年10月末に韓国で開催された第4回アジア防災閣僚会合の「インチョン宣言」では、アジアにおいて災害のリスク、とりわけ気候型災害のリスクが急速に増大していることへの危機感が共有され、増大するリスクへ適切に対処していくため、情報・技術・成功事例等の共有を図りつつ、防災の取組をなお一層強化し、且つ、持続的な開発の過程に気候変動適応や防災の取組を適切に取り込んでいくこととされました。本年5月の第3回防災グローバルプラットフォームや2011アジア防災会議等の機会も活用して、国際防災協力のなお一層の推進に引き続き取り組む所存です。

アジア各国の人々の安全・安心の推進のため、職員一同取り組んでまいりますので、本年もご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

所長 是澤 優

### ●国際会議への参加

#### 第4回アジア防災閣僚会議への参加

アジア防災センター（ADRC）は、2010年10月25日から28日に韓国のインチョンで開催された第4回アジア防災閣僚会議（4th AMCDRR）に参加しました。今回の閣僚会議には、韓国及びブータン国の首相、53のアジア・太平洋・ヨーロッパ諸国の閣僚、国連、国際機関、NGOの代表などから900名以上の参加がありました。

## 続き

本紙面では、本会議におけるADRCの活動についてお知らせいたします。

### テクニカル・セッション1 (TS1) 及びハイレベル・ラウンド・テーブル1 (HLRT1)

TS1は、ADRCの議長、そしてASEAN事務局、 Bangladesh 災害予防センター (BDPC)、国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC)、EMI (Earthquake and Megacities Initiative)、プラクティカル・アクションの共同議長により開催され、「防災 (DRR) と気候変動 (CCA) に関する意識啓発と能力開発」に関して3つの成果文書 (インチョン宣言、インチョン・ロードマップ、インチョン行動計画) への反映について議論が行われました。

TS1の議論では主に以下の2つの懸念について確認されました。一つは、政府職員と市民社会組織両者のためのトレーニングの必要性です。その理由としては、政府職員は異動が多いので、異動の少ない市民社会組織をトレーニングすることによりそのギャップを補うことができるからです。もうひとつは、リスクの管理について貧しい人々及び地域に根ざした人々から学ぶ必要性、そして各国においてコミュニティ住民のDDRやCCAへの努力を支援する必要性です。このような課題に取り組むために、DRRとCCAは地方及び国家開発計画の中に組み入れられるべきで、また異なるレベルでの活動を実施するためにリソースを結集しなければならないとも強調されました。

その後行われたHLRT1の全体セッションでは、ADRCは共同議長を務めました。全体セッションでは、各国の大臣がそれぞれの国の課題や解決策のローカライズ化の必要性について言及しました。このような地域レベルの問題に対応するために、代表団は国と地方レベルでの協働活動や専門知識の共有を行っていく旨表明しました。各国代表団は、本会議で取り上げられた課題は、特にDRRとCCAにおける意識啓発と能力開発の成果文書内に十分に明記されるべきであるとの認識を示しました。

### IRP-ADRCサイドイベント「よりよい復興に向けた手法：復興における気候変動対応に関するガイドランスノートの紹介」

本サイドイベントでは、効果的で回復力に富み持続的な復興への取組を進めるために、DRRとCCAを復興過程にいかに関与させるかについての協議が行われました。国際復興支援プラットフォーム (IRP) とADRCは、気候変動にも強い生活復興やインフラ設備の強化に関する課題の他、制度面での支援、コミュニティ主体のアプローチ、健康に関する課題についても取り上げました。また、兵庫県、モルディブ、ネパール、フィリピンからは復興に関するDRRとCCAに対する意識啓発と能力向上といった包括的な課題について報告が行われました。その他に復興は災害後に早急になされなければならないのかといった課題も提起されました。

発表者からは、既存の課題やギャップに対応するための取組みについて紹介がありました。兵庫県からは、コンピュータグラフィックスを利用したハザードマップの利用推進についての報告があり、その特徴として、(1) 異なった5種類の自然災害の危険情報の一つのウェブサイト上での提供、(2) 降水量や河川水位に関するリアルタイムの情報提供、(3) 地図を使った危険情報の提供や住所・郵便番号からの検索などの利便性向上、(4) 災害イメージ、写真、ビデオによる情報提供などが紹介されました。また、モルディブからは、インフラ、保健衛生、水資源、食糧といった異なるセクターに対する、様々な気候変動適応策についての報告が行われました。同国では、気候変動に対応した国家環境行動計画 (NEAP) や、気候変動に強いインフラ整備などを含む国家適応行動計画 (NAPA) と



## 続き

いった様々な政策や戦略が制定されているところです。フィリピンからは、気候変動の政府政策形成への主流化に関する法律が制定され、それにより気候変動に関する枠組戦略やプログラムの策定や気候変動委員会の設立が行われたことが報告されました。ネパールからは、ヒマラヤの環境に関する気候変動の影響についての報告があり、16億もの人々への水の供給に直接的な影響が生じることが指摘されました。

IRP-ADRCサイドイベントは、参加者から寄せられた様々な情報・経験をもとに、DRRとCCA、及び復興を一体化するためには幅広い様々なツールが利用できるとの結論を導き、閉会しました。これらツールの普及方法を改善することにより、政府やコミュニティの災害からの回復力が強化されるとともに、DRR、CCA、復興の一体化に関する能力開発によって、ツールの普及がさらに推進されることが期待されています。

### 「アジア防災映像展」の開催

ADRCは、4th AMCDRRの開催期間中の10月26日～27日にかけて、インドのNGO・Global Forum for Disaster Reduction (GFDR) 及びアジア災害予防センター (ADPC) と協力し、「第1回アジア防災映像展」(AFFDRR: Asian Film Festival on Disaster Risk Reduction) を開催しました。開会式では、是澤アジア防災センター所長とビチットADPC所長から基調講演があり、また、GFDR代表のシンハ氏のビデオによる開会挨拶がありました。引き続き、ドキュメンタリーやフィクションなどアジア地域の防災に関するさまざまな映像が上映され、参加者の関心を集めました。

## ブータン国際会議とGLOFプロジェクト

防災と文化遺産の国際会議がブータンの首都ティンプーで2010年12月12-14日に開催されました。Lyonchhen Jigmi Y. Thinley総理大臣、マルガリータ・ワルストローム国連事務総長特別代表(防災部門)、MoCHA大臣、海外ドナー多くが参加するブータン史上最大規模の国際会議で、世界23カ国から55名、国内参加者を含め合計153名規模で5つのテーマについて議論がなされ、成果をThimpu Documentにまとめました。

- a. Policy and Institutional Framework for Disaster Management
- b. Technical Aspects of Disaster Management
- c. Traditional Practices for Disaster Risk Reduction
- d. Post-Disaster Recovery of Cultural Heritage
- e. Capacity Building and Networking

この文書は2011年5月に開催されるグローバルプラットフォーム、及び2011年10月のヒマラヤ気候サミットに報告される予定です。

ADRCからは荒木田勝主任研究員が、日本、アジア、中米における伝統的な防災技術と、コミュニティ自身が主体的に継続可能な早期警戒について紹介し、今後のBhutanにおける展開方を発表しました。

国際会議終了後、GLOFプロジェクト対象地であるPunakha県知事を表敬し、Mo-chu川の上流域で2009年の洪水の被害状況の把握とコミュニティ主体の水位計設置場所の調査を行いました。今後、2011年4月には住民、生徒、僧侶を対象とした防災教育や防災訓練のワークショップ

**続き**

プを実施するとともに、コミュニティ自身が管理運営できる雨量計や水位計の作成教室を開催する予定です。

**●お知らせ****防災プロジェクト・ポータル開設**

防災プロジェクト・ポータルは、アジア太平洋地域におけるよりよい防災協力のための知識共有のメカニズムとして、第4回防災閣僚会議の開催中に立ち上げられました。このポータルは、ISDRアジアパートナーシップ（IAP）のワーキンググループによる指揮のもと、IAPにより開発されたものです。このポータルのアジア開発銀行（ADB）と本事業の実施機関としてADPCが支援しています。本ポータルについてはウェブサイト（[www.drrprojects.net](http://www.drrprojects.net)）をご覧ください。詳しくはADPCにお問い合わせください。

またADRCのホームページ（<http://www.adrc.asia>）からもアクセスできます。

**問い合わせ・配信申し込み**

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は [editor@adrc.asia](mailto:editor@adrc.asia) までEメールをお寄せください。